

第15回

## 世界の段ボール箱が本のカバーに。 子供たちの笑顔は、世界の希望!



アイデアの種が  
エコロジーの実になる  
**エコの種**

笑顔って、伝染する。「Mary EXPO BOOK」のページをめくっているうちに、自然と笑みが浮かび、笑顔が持つ不思議なパワーを感じざるをえなくなる。去年、愛知で開催された万博「愛地球博」。そのなかで、さまざまな国の子どもたちの笑顔を、巨大ビジョンで流し続けた映像作品で話題になったのが「Mary EXPO」だ。アートディレクションは、グラフィックデザイナーの水谷孝次さん。水谷さんは23カ国を旅し、2万人を超える子どもたちの笑顔を撮影し続け、そして必ずこの質問をした。

「あなたにとって、Mary (幸せ) とはなんですか?」

「Mary EXPO BOOK」(新風舎刊) 1575円・税込)は、水谷さんの活動の集大成といえる一冊で、太陽のよさな笑顔の子どもたちの写真と、ひとりひとりのMaryメッセージが掲載されている。見ていただけで明るい気

分になるのだけど、この本がステキなのはそれだけではない。万博開催期間中に、世界中から集まり使用済みとなった段ボール箱を再利用し、その段ボールを本のカバーにしているのだ。しかも一冊一冊が手作り製本! つまりひとつとして同じものがないということ。「この段ボール箱にはなにが入っていたのかな」「段ボールのデザインって面白い!」など、いろんな思いが巡って、これまた楽しい。

水谷さんは、撮影した各国で、ごみ拾い、も実行している。

「教育が行き届いていない国や貧しい国に行くと、街がごみで溢れている。気になって、撮影後にその場のごみを拾い始めたのがきっかけ。そうしたら不思議なことに、その国の子どもたちが自然と集まってきて、僕と一緒にごみを拾い出すんですね!」

「負のエネルギーを、プラスにかえる」ことが、この活動のテーマだと水



谷さんは語る。貧困や戦争で傷ついた子どもたち。でも彼らに笑顔が灯るうちはまだまだ未来は明るい。

「あなたにとって Mary とは? という問いに「今日あなたに出会って、こんな風に笑えたこと」と言う子どもたちがいる。この活動をやって僕が Mary になる瞬間です!」

この本の売り上げの一部は南アフリカ共和国の子供たちへ学校を贈るために役立てられる。どこかの国の子どもたちに、大きな Mary をプレゼントできる一冊でもある。

文・イラスト/福島はるみ